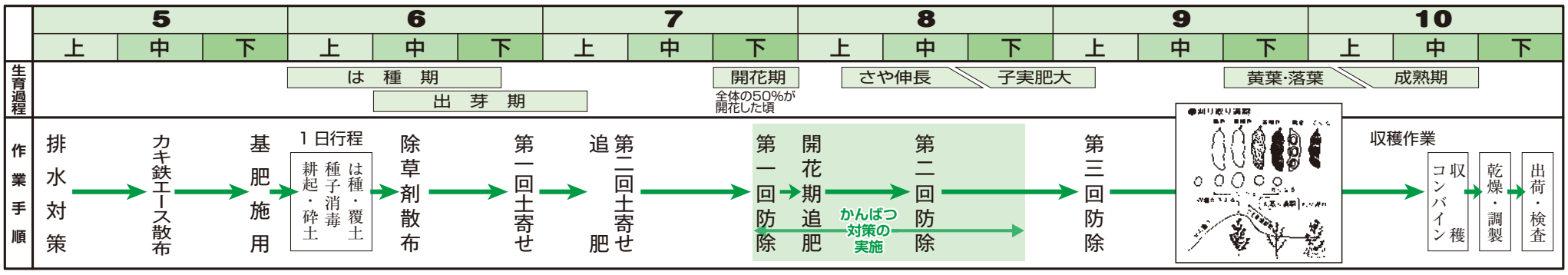
大豆の生産安定をめざして

大豆栽培こよみ

JA能美
能美小松営農推進協議会

栽培上の要点

- は種前排水対策の徹底による苗立数の確保
- 基本技術の実践
  （中耕培土の徹底・除草・防除の徹底・畦間通水の実施・適期収穫）



① 種子更新の徹底　品種：里のほほえみ

② 排水対策

- 畝立同時は種は初期の湿害回避に有効です。
- 地下水位50cm以下を目標とし、水田周囲及び圃場内に排水溝を掘る。
  また弾丸暗きょを併用するとよい。

③ 種子消毒（ネキリムシ・フタスジヒメハムシ、紫斑病予防、ハト害対策）

薬剤名	使用方法
クルーザーMAXX	種子1kgに対して、クルーザーMAXX 8mlを処理し、10分間風乾する。キヒゲンの粉衣処理が省けます。
キヒゲン	種子1kgに対してキヒゲン水和剤10g+識別剤10mlを処理し、10分間風乾する。ネキリムシやフタスジヒメハムシ防除には、種子にクルーザーFS30を処理する。

- 種子消毒は必ず実施する。
- 機械は種の場合は詰まる恐れがあるので充分に風乾させる。
- クルーザーMAXXは、キヒゲンの粉衣処理が省け、かつ茎疫病にも効果があります。

④ は種

は種時期		は種量／10a	条間	株間	苗立数／10a	苗立数／m
普通	6月5日～6月20日	7～8kg	75～80cm	13cm（2粒播）	15,000～18,000本	12～14本
麦跡	6月6日以降	7～8kg	75～80cm	13cm（2粒播）	15,000～18,000本	12～14本

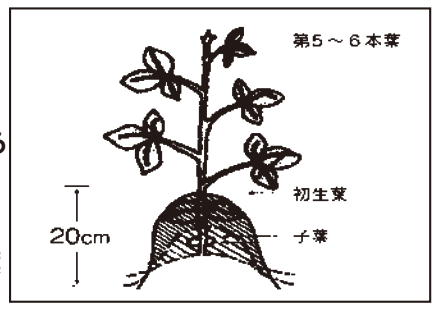
- 耕起からは種までの一連の作業は土壌条件の良い日に行い、1日で終えるようにする。
- 砕土は細くし、は種の深さは3cm以内とする。
- 雑草の多い圃場では耕起前にはバスタ液剤500mlを、は種10日前までならラウンドアップマックスロード500mlを水100リットルに溶かし、10aに散布する。

⑤ 施肥基準

施肥時期	肥料名	10a当り施用量	備考
土づくり（酸度矯正）	カキ鉄エース	100kg	酸度矯正はPH6.5～7.0を目標とする。 は種までは、7～10日間あけること。
基肥	BB056	20kg	麦稈を鋤込んだ場合は、30kg／10a施用する。 連作田では、25kg／10aの施用とする。
	BB大豆一発	30～40kg	麦稈を鋤込んだ場合は、40～50kg／10a施用する。 肥沃田・野菜跡の場合は、30kg／10a施用する。
追肥	LPコート70（被覆尿素70）	20kg	第2回培土時20kg
	硫安	30kg	第2回培土時10kg／10a 7月下旬20kg／10aの2回

（追肥は散布後に培土するので、雨にあわない期間を狙って作業する）

⑥ 土寄せ



- 第1回
  本葉が2～3葉開いた時、子葉節がかくれる程度まで土寄せする。
- 第2回
  本葉が5～6葉開いた時、初生葉と第1本葉の中間を目安に土寄せする。
- 土寄せは湿害防止、倒伏防止、雑草抑制効果があり、特に収量を高めるための重要な作業です。
- 株元に十分に土寄せし、うねの中央部が低くならないようにする。
- 遅くとも開花期までに2回目の土寄せを終わらせる。

⑦ 除草剤散布　周辺圃場に薬剤が飛散しないように注意すること

●は種覆土後

薬剤名	10a当り散布量	希釈液	備考
クリアターン細粒剤F	5kg		畑地1年生雑草
ラクサー粒剤	4～6kg		
トレファノサイド乳剤	希釈液100リットル	水100リットルに薬量250ml	畑地1年生（キク科等除く）

●7月上旬

散布時期	薬剤名	10a当り散布量	希釈液	備考
イネ科雑草3～5葉期	ナブ乳剤 または ポルトフロアブル	希釈液100リットル	水100リットルに薬量200ml	収穫2ヵ月前まで
イネ科雑草3～8葉期		希釈液100リットル	水100リットルに薬量300ml	収穫60日前まで
広葉雑草（主にタデ類）生育初期～6葉 大豆本葉2葉～開花前	大豆バサグラン液剤	希釈液100リットル	水100リットルに薬量150ml	大豆の葉に斑点、色抜け、黄変、萎縮、部分枯死等の薬害が生じる場合がある。収穫45日前まで（JAより使用説明を受ける必要あり）

●畝間及び畦畔除草
特に畝間に散布する場合は、大豆に飛散しないように注意する。
散布時期…雑草生育期

薬剤名	10a当り散布量	希釈液	使用限度回数	備考
ラウンドアップマックスロード	希釈液50リットル	水50リットルに薬量500ml	1回（大豆生育期）	収穫前日まで は種前と生育期1回ずつでも可。
バスタ液剤	希釈液100リットル	水100リットルに薬量500ml	3回	収穫28日前まで
プリグロックスL	希釈液100～150リットル	水100～150リットルに薬量600～1000ml	4回以内	収穫3日前まで

⑧ 病害虫防除（良質大豆生産のため必ず実施すること）（個人防除）

防除時期		薬剤名	散布量	対象病害虫
1回目	7月下旬～8月上旬（開花期）	スミチオンベルクート粉剤DL	3kg	紫斑病、マメシンクイガ、カメムシ
2回目	8月中旬（幼莢期～子実肥大前期）	スミチオンベルクート粉剤DL	3kg	紫斑病、マメシンクイガ、カメムシ
3回目	9月上旬（子実肥大期）	トレボン粉剤DL	4kg	カメムシ、ハスモンヨトウ、マメシンクイガ、フタスジヒメハムシ

⑨ 干ばつ対策

開花後（7月下旬）以後、猛暑が続き、葉が裏がえる症状が見られたら畝間灌水を行う。
なお、畝間に水が行きわたった時点で落水すること。

⑩ 収穫・脱粒・調製

●収穫の手順

コンバイン収穫の場合
- ■収穫適期の目安
  - ●子実の水分が18%以下
  - ●全莢の90%以上が褐色、茎が黄褐色～褐色。
- ■収穫作業は、茎、莢が十分乾燥した午前10時以降に行い、刈取り部は土を入れないように注意すること。
- ■「汚損粒」の発生を防止するため、雑草や青立ち株は刈取前に必ず取り除くこと。

●調製
子実の水分が13%程度になるように仕上げる。